

## 道民向け説明会における主な意見等について

### 1 札幌

- ・ 当初計画の研究期間20年程度を無視しており、認めることができない。
- ・ 今回の大幅延長は三者協定第7条に該当しないのではないかと。
- ・ 埋め戻しの工程を示すよう機構に求めるべきである。
- ・ 毎年、確認会議を開催していれば、研究の遅れは事前に分かったのではないかと。道の不作為である。
- ・ 確認会議で確認した項目を道はどう担保するか。
- ・ 立坑から放射性物質が漏れ出すことに対応した埋め戻しの研究が必要。
- ・ 12月の議会までに何とかしようとしており、拙速である。
- ・ 延長前提で、今回の説明会はアリバイづくりではないかと。
- ・ 地層処分を是非をどう考えているのか。
- ・ 延長ではなく新しい研究計画案であり、これを認めると永遠に続く計画案である。時間をかけ検討すべき。

### 2 幌延

- ・ 研究期間の延長には賛成。国内での唯一の深地層研究施設でのデータ収集が必要である。
- ・ 研究期間の再延長を認めると、自動延長になる可能性があり、最終的には処分場になる可能性がある。
- ・ なし崩し的に最終処分場にしないことを担保するのが三者協定である。そういった不安を取り除くためには、明確な研究終了の期限を示すべき。研究の延長を認めるなら、今回限りとは明記されない限り、延長計画は拒否して欲しい。
- ・ 是非、深地層研究を推進して欲しい。
- ・ なぜ、確認会議の開催を急いだのか。研究期間が明らかになっていない。
- ・ 三者協定を遵守するなら計画に沿って20年で終了するべき。
- ・ 泊原発がある以上、深地層研究は必要である。
- ・ 高レベル放射性廃棄物の処理が増えるので、深地層の研究を進めて、処分技術を確立して欲しい。
- ・ 当初計画には20年で研究を止めるとは書いていない。20年の期限が大事ではなく、研究の成果を出すことが大切であり、処分技術の研究を途中で止めることはあり得ない。
- ・ NUMOの資金と人材が原子力機構に入ると、そこはNUMOの施設になる。